

令和6年度

自己評価報告書

令和7年5月31日

九州医療専門学校

教育理念、目的

教育理念	人に寄り添う教育と心身の健康を育む、文武両道の精神のもと、医療・福祉のスペシャリストを育成する。
目的	本校は教育基本法、学校教育法および私立学校法に基づき、高等学校における教育の基礎の上に、各種資格取得に必要な専門的知識及び技術並びに一般教養に関する教育を行い、もって有能な人材を育成することを目的とする。

教育理念・目的・育成人材像

評価

評価結果 (総括)	本校は、校訓、教育理念、教育目的を定め、学生便覧に記載しており、育成人材像も医療・福祉のスペシャリストと明確に示している。また、三つのポリシーは一貫性のあるものとして作成している。内容については入学式、卒業式、オリエンテーション、保護者会などで説明し、本校の特色を共有できるように努力している。社会への周知としてはホームページ等への掲載、SNSを使用も考える必要がある。
取組状況と その分析	校訓、教育理念、教育目的、育成人材像は明確に定めているが、周知についてはホームページ等への掲載、SNSを使用の検討する必要がある。
今後の 改善方策等	すでに行っている式典、オリエンテーション、保護者会等における口頭での周知と共に、パンフレット等を用いた周知、SNSを利用した周知などの周知方法を進めていきたい。

	教育理念・目的は、定められているか	3.8
1	教育理念等はそれぞれ定められているか	4
2	教育目的はそれぞれ定められているか	4
3	学生・保護者に対して教育理念・目的・育成人材像・特色などが、周知されているか	3
4	各学科の教育理念・教育目標・育成人材像は社会のニーズに対応できているか	4
実施状況等	1. 教育理念は開学時から定めており、学生便覧にも掲載している。 2. 教育目的は開学時から定めており、学生便覧の総則に掲載している。 3. 入学式、卒業式、オリエンテーション、保護者会の機会を利用し、教育理念・目的・育成人材像・特色の周知を図っている。 4. 各学科の教育理念・教育目標・育成人材像は、教育基本法、学校教育法および私立学校法に基づいており、社会のニーズに対応できている。	

令和6年度の目標と計画

目標	(重点目標) 医療現場のニーズの変化に対応し、多職種と連携するためにも、知識・技術力の向上に取り組む意欲を持ち、また、医療人として豊かな人間性、社会性を身につけた歯科衛生士を養成することを目指す。
計画	(目標達成のための具体的事業計画、行動計画) 座学では基礎学力を把握し、授業に遅れが出ないよう適宜フィードバックを行う。実習では必要に応じて補習を行い、知識・技術を確実なものにできるよう指導を行う。 臨地・臨床実習では、高齢者施設・障害者施設・大学病院・一般病院などでの総合的な実習ができるよう常に向上心を持って取り組む。

教育活動

評価

評価結果 (総括)	カリキュラムは入学後すぐに学生に周知し、自主的に教科科目と内容を確認する学生が増えて いるため、教育活動は概ね良好といえる。
取組状況と その分析	年間授業単位数と、試験及び進級・卒業については、学生便覧に明確に定めており、学生に周 知されている。また保護者にも保護者会を通して説明が出来ている。
今後の 改善方策等	学生個人の進捗レベルを教員同士で引き続き共有したい。また、専任教員は質の向上のため学 会・研修会には積極的に参加し、専門性を高めるためにも今後も学生に還元できるよう努力を 怠らない。

	教育活動	3.1
1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限を設定し、その修業年限に 対応した教育到達レベルを明確にしているか	4
2	教育課程（カリキュラム）は、体系的に編成され事前に学生に開示されているか	4
3	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開 発などが実施されているか	4
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	1
5	資格・免許取得のためのカリキュラムを組んでいるか	4
6	資格・免許取得のための指導体制がとられているか	4
7	教員数は関係法令等を満たしているか	2
8	教員研修会等への参加を奨励・支援しているか	3
9	校内研修（OJT）を行っていますか	1
10	企業、業界団体、自治体等と連携した授業等を行っていますか	3
11	企業、医療機関等において、校外実習・インターンシップ等を実施していますか	4
実施状況等	1.学生便覧、シラバスに明記している。 2.教務会議でカリキュラムは十分検討しており、内容はシラバスに明記している。 3.国家資格取得が目標である学科なので、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリ キュラムが設定されており、実践的な実習を工夫して教育している。 4.実施していない。 5.国家試験を意識したカリキュラムになっている。 6.模擬試験等のフィードバックや成績不良者の補習体制をとっている。 7.専任教員は平均4人で満たしてはいる。 8.日本歯科衛生学会等の学術大会への参加や歯科衛生士専任教員講習会に参加している。 9.今年度は行っていない。 10.学内で企業セミナーを行った。 11.小学校、保健所、歯科診療所、大学病院、インターンシップ等を実施している。	

学修成果

評価

評価結果 (総括)	国家試験合格を最終目標として、国家試験対策の講義、模擬試験を行っている。2024年度は1名の不合格者を出した。1.2年生での基礎が重要と考えられ、追いついていない学生への支援や助言が必要と思われる。
取組状況と その分析	夏休み前後で就職相談会を実施し、夏季休暇から就職活動を行っている。本格的に活動するのは、臨床実習が終了する10月末ごろからとなり、求職のミスマッチングを防ぐ為、まずは見学に行き、面接という手順を設けている。
今後の 改善方策等	比較的早期の段階での離職率が高くなっているため、対策が必要と感じられる。国家試験に対しては、年々学力が低下していく中で、対策を適宜見直して対応していく。今後100%を維持していく為引き続き国家試験対策を行っていく。

	学修成果	3.8
1	国家資格取得率向上のための対策等を講じているか	4
2	就職率の向上が図られているか	4
3	学生の就職活動状況を把握し、指導・助言する体制があるか	4
4	退学率の低減が図られているか	3
実施状況等	1. 全国模擬試験を受験させ、各学生の実力を学生に把握させる。成績不良の学生には補習を行っている。 2. 夏期休暇から歯科医院見学等を行うよう指導しており、学生は複数の歯科医院を見学して、就職を決めている。また、就職説明会を開催し、就職への意識付けを行った 3. 就職担当の教員が学生の希望を聞いてアドバイスしている。 4. 成績不良者やコミュニケーション力に悩む学生が多くなっているため、個別面談を実施している。	

学生支援

評価	
----	--

評価結果 (総括)	概ね適正に行われている。学生一人一人に対して指導を行い、欠席・遅刻者の多い学生、成績不振者については保護者を含め面談を行った。 就職支援については、歯科医院を募って就職相談会を実施しており、学生の意欲向上にもつながっている。
取組状況と その分析	担任により二者面談時に相談内容を把握し迅速に対応し問題解決に努めている。 また、ハローワークの公的支援制度や、歯科医院からの奨学金支援制度の紹介、学校独自の奨学金制度等もあり、金銭的にも支援が整っている。
今後の 改善方策等	今後は更に中学高校との連携によるキャリア教育・就職教育の取り組みを増やす必要がある。就職については、ネットで登録する就職派遣でのトラブルも多くなっている為その対策も必要と思われる。今後情報ツールの活用を進めなければならない。令和7年度にも就職相談会を開催して、就職支援の一助とする

学生支援		3.4
1	就職・進路等に関する支援体制は整備されているか	4
2	就職説明会等を開催しているか、または人材関連企業等が主催する説明会等への参加を奨励しているか	4
3	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4	公的支援制度の利用について、学生・保護者に案内、情報提供しているか	4
5	学費の減免、特待生制度、学校独自の奨学金制度等はあるか	4
6	学生に対し、定期健康診断を実施しているか	4
7	遠隔地からの学生のための寮を整備したり、またはアパート・マンションの紹介等をしているか	2
8	保護者・保証人との連携は図られているか	3
9	卒業生への支援体制はあるか	2
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3
実施状況等	1.就職・進路等について担任が対応することを基本とし、教務会議にて報告審議している。 2.就職相談会を実施した。ハローワークからの説明時間を設けている。カリキュラムの基礎分野にコミュニケーションを設けている。 3.学生の相談は担任が主に行っているが、問題があるときには教務会議にて検討している。 4.入学前のオープンキャンパス時、入学後のオリエンテーション時に説明している。 5.KACサポート制度として各種の学費減免制度がある。また、その他の奨学制度についても紹介している。 6.胸部レントゲン、内科検診を実施している。 7.寮の整備は行っていない。 8.保護者会を開いて、学科の方針説明、学生の情報共有を行っている。 9.機会があれば同窓会を通して全卒業生を対象に講習会を行っている。 10.複数の高校からキャンパス見学を受け入れ、キャリア教育・職業教育に資している。	

教育環境

評価

評価結果 (総括)	歯科医院さながらの実習室をはじめ、実験室等の施設は整えており、実践的な知識と技術を身につけることができる。実習は解剖実習、大学病院、高齢者・障害者施設、保健センター、そして信頼のある歯科医院に実習先としてお願いし、高い即戦力を育てることが出来ている。
取組状況と その分析	臨床実習は学生の居住地を考えて実習を組んでいる。問題が生じた際は臨床実習先と密に連携を取り問題解決できるよう学生指導を行っている。
今後の 改善方策等	今後も教育上必要な設備・教育用具は定期的に点検し早期に部品交換を行ったり、計画的に購入し学生教育に支障がないように努める。 実習では定期的な会議を行い、更に充実した実習になるように今後も密に連携をとっていく。

	教育環境	4.0
1	施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合し、かつ、教育上十分に設置・配置されていますか	4
2	校内外の実習、インターンシップ等について、十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災・安全管理に関する体制は整備されているか	4
実施状況等	1.施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合して十分に設置・配置されているが、順次更新も必要と考える。 2.校内外の実習、インターンシップは十分な教育体制をとっている。 3.毎年1回消防訓練を行い、避難通路確認、消火器の使用法確認等を行っている。	

学生募集と受入れ

評価

評価結果 (総括)	歯科衛生士の職業紹介をはじめ、本校の特色をパンフレットやＨＰ、Instagramで分かりやすく作成し、ガイダンス・オープンキャンパスでは体験実習を通して職業理解に努めた。また夏休みにスペシャルオープンキャンパスを行い学生確保に努めた。
取組状況と その分析	年間を通してオープンキャンパスの回数も多くして、参加生徒と保護者との繋がりを密に出来るよう努めた。また在校生にも協力してもらい手伝ってもらっている。また社会人の受入にも力を注ぎ、給付制度・奨学金制度も引き続き継続して行う。
今後の 改善方策等	今後は、高校３年生だけでなく、高校１・２年・中学生にも視野をひろげて広報活動を行いながら学生確保にむけて対策を練る。

	学生の受入れと募集	4.0
1	高等学校等直結する教育機関に対し、教育活動等の情報提供を行っているか	4
2	体験入学・オープンキャンパス等を実施し、多くの人に教育内容・施設設備等の紹介をしているか	4
3	入学に対する問い合わせ等に適切に対応できる体制を取っていますか、または人員を配置しているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	社会人の「学び直し」に対応し、社会人を積極的に受入れているか	4
6	教育訓練給付制度（一般教育訓練給付・専門実践教育訓練給付）を利用できるよう取組んでいるか	4
7	給付型奨学金や授業料等減免など、学校独自に学生への経済的支援を行っているか	4
実施状況等	1.会場ガイダンス、高校主催のガイダンス、高校訪問も担当者が随時行って情報提供している。 2.高校からの学校見学、体験実習の要請を受けて実施している。オープンキャンパスも10回以上行って、教育内容・施設設備等を紹介している。 3.インターネット、電話等での問い合わせは事務局が受け、該当する各科の事務職員等が対応している。 4.近隣の専門学校と比べて同等の学納金である。 5.シニア優遇制度、シングルマザー・シングルファザー優遇制度、有資格者制度などを設けている。 6.「高等教育の修学支援新制度」の対象校である。歯科衛生士科は「専門実践教育訓練給付」を利用できる。 7.KACサポート制度、KAC奨学金など学校独自の経済的支援を行っている。	

社会貢献・地域貢献

評価

評価結果 (総括)	臨地・臨床実習で地域の方々の健康維持・増進に貢献している。 また、2024年度はSAGA2024全障スポのボランティアに教職員・学生が参加した。
取組状況と その分析	臨地実習では幼稚園・保育園、小学校に出向き学外実習を通じて社会貢献・地域貢献を行った。 SAGAスポ全障では事前学習と準備、当日の選手のお手伝いを行った。
今後の 改善方策等	歯科衛生士の特徴を生かした社会貢献・地域貢献を引き続き考えていきたい。

	社会貢献・地域貢献	3.0
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3
3	地域の企業、業界団体、自治体等と連携した事業等を行っているか	2
実施状況等	1.歯科衛生学科の教育資源（口腔ケア用具等）を利用して、「歯と口の健康週間」等の社会貢献・地域貢献を行っている。 2.SAGAスポ全障でボランティアの参加等を行った。 3.引き続きボランティアや活動を考えていきたい。	

令和6年度の目標と計画

目標	(重点目標) 積極的に知識やスキルを習得する意欲を持ち続け、即戦力として歯科医師に認められ、また、社会から信頼される歯科技工士の育成を目指す。
計画	(目標達成のための具体的事業計画、行動計画) 「基礎力」を育成し、基本的な補綴物を正確に製作することによって、ハイレベルな補綴物まで製作できるような実習指導を行い、自主的に専門基礎科目と専門科目の関連性を意識した知識の習得ができるように指導を行う。

教育活動

評価

評価結果 (総括)	資格取得のためのカリキュラムは概ね良好である。 修行年限に対して実技的履修課題が多く、個人的技術差を無くすのは難しいが教育到達レベルには達していると思われる。通信制高校卒の学生にはzoom授業が役に立っていると推測できる。
取組状況と その分析	修業年限に対し学生の能力低下がみられ実技学科共に難しい状況であるが、6年度2年生は能力的には昨年より良い結果が出たと思われる。 歯科メーカー（モリタ・クラレノリタケ・ノーベルバイオケア）と連携授業を行っている。 法令上本科の学生は校外実習は出来ない為、専攻科でインターンシップを行っている。
今後の 改善方策等	技術の個人差を少なくする為に、1年時の基礎力の充実が課題であるので実技補講を個人に合わせて効率の良い指導を行い学生のやる気を無くさない方法を考える。 通信制高校からの入学生に対してのzoom講義授業を増やしている。

	教育活動	3.8
1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限を設定し、その修業年限に対応した教育到達レベルを明確にしているか	4
2	教育課程（カリキュラム）は、体系的に編成され事前に学生に開示されているか	4
3	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	1
5	資格・免許取得のためのカリキュラムを組んでいるか	5
6	資格・免許取得のための指導体制がとられているか	4
7	教員数は関係法令等を満たしているか	5
8	教員研修会等への参加を奨励・支援しているか	4
9	校内研修（OJT）を行っていますか	3
10	企業、業界団体、自治体等と連携した授業等を行っていますか	4
11	企業、医療機関等において、校外実習・インターンシップ等を実施していますか	4
実施状況等	1.学生便覧、シラバスに明記している。 2.教務会議でカリキュラムは十分検討しており、内容はシラバスに明記している。 3.国家資格取得が目標である学科なので、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが設定されており、実践的な実習を工夫して教育している。 4.実施していない。 5.国家試験合格を意識したカリキュラムになっている。 6.朝テストを行い成績不良者の弱点補強を放課後行っている。また、実習の進度が遅れた学生にも放課後補習を行って対応している。 7.現状の在学数であれば専任教員4人でほぼ満たしている。 8.R6年度の全国技工士教育協議会の研修はオンライン研修であった。 9.経験の浅い教員に対しては実習項目を選択して行っている。 10.歯科メーカー（クラレノリタケ）と和田精密歯研（企業）と連携授業を行っている。 11.歯科技工士本科の学生は免許を持っていないので学外において技工に携わる実習が出来ない為、専攻科の学生がインターンシップを行っている。	

学修成果

評価

評価結果 (総括)	職員間での学生の情報を共有し対策等を講じれるようにする必要があると思われる。 学習指導が必要な学生には「基礎力」向上の為、1年次より自主的な学習指導を強化する。 学習指導のみならず、生活指導が必要な学生が多々みられる為、保護者との連携を行い良い方向へ進めることが出来ていると思われる。
取組状況と その分析	2年生進学時より国家試験対策の為、ほぼ毎日実技・学科の試験を実施しており、また学科において合格点に満たない学生にはその日のうちに補講を行っている。 求人票閲覧は自由にでき、興味のある企業には見学に行くように促している。 定期的に個人面談を行い随時確認を行っている。
今後の 改善方策等	国家試験対策は現状を維持し、学生の学力低下に関してはカリキュラムの見直し・改善を行う必要がある。 悩みを抱えている学生の早期発見に努める為、担当職員と相互理解する必要がある、個人面談や必要に応じて専門医によるカウンセリングを行う。

	学修成果	4.5
1	国家資格取得率向上のための対策等を講じているか	5
2	就職率の向上が図られているか	5
3	学生の就職活動状況を把握し、指導・助言する体制があるか	5
4	退学率の低減が図られているか	3
実施状況等	1. 2年生では国家試験対策の為、ほぼ毎日実技・学科の試験を実施している。学科で合格点に満たない学生にはその日のうちに補講を行っている。 2. 求人票を開示し見学に行くよう指導している。(歯科技工士新卒は就職100%である。) 3. 定期的に教員が個人面談を行いアドバイスしている。 4. 成績不良者やコミュニケーション力に悩む学生が多くなっているため、遅刻欠席が目立ってきたら個人面談及び内容によっては保護者と連絡を行っている。通信制高校から入学した学生は個人差が激しく出席状況に問題があるため課題消化が難し状況にある。	

学生支援

評価

評価結果 (総括)	学生支援は概ね適切に対応しているが、総合的な学生支援の目的で保護者会を開催したが希望者が少なく、相談要の学生の保護者には来校をお願いして面談を行った。問題のある学生に対しては保護者を交えた学生支援を考えていく必要がある。
取組状況と その分析	2年生は就職に対し意識付けの為、企業見学を実施。今年は1年生を含め2年生・専攻科に対し企業説明会を開催した。 個人面談は定期的の実施しており、カウンセリングが必要と思われる学生にはカウンセリングを勧めている。 在学生に対して公的支援制度・企業奨学金等の制度については更新や取入れがあった際、随時説明を行った。また、企業による専攻科奨学金が好評である。
今後の 改善方策等	保護者説明会に関しては、特に保護者との連携が必要な学生に関して随時連絡を取る方法が良いと思われる。

	学生支援	4.2
1	就職・進路等に関する支援体制は整備されているか	4
2	就職説明会等を開催しているか、または人材関連企業等が主催する説明会等への参加を奨励しているか	4
3	学生相談に関する体制は整備されているか	5
4	公的支援制度の利用について、学生・保護者に案内、情報提供しているか	4
5	学費の減免、特待生制度、学校独自の奨学金制度等はあるか	4
6	学生に対し、定期健康診断を実施しているか	4
7	遠隔地からの学生のための寮を整備したり、またはアパート・マンションの紹介等をしているか	4
8	保護者・保証人との連携は図られているか	5
9	卒業生への支援体制はあるか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
実施状況等	1.企業見学を行っている。 2.企業説明会を開催している。 3.学生の相談は個人面談を行っており、新入生に対しては全員一度専門家によるカウンセリングを行っている。 4.オリエンテーション時に説明している。 5.KACサポート制度として各種の学費減免制度がある。また、企業奨学制度についても紹介している。 6.胸部レントゲン、内科検診を実施している。 7.寮の整備は行っていないが遠方の入学生に対しては事務局から不動産情報を提供している。 8.欠席者に対しては随時保護者と連絡は取っている。 9.卒業生に対する支援は望んだ就職先を新たに紹介する。 10.高校からキャンパス見学の受け入れに対しキャリア・職業教育に資している。高校の要望に応じてはデリバリー授業も行っている。	

教育環境

評価

評価結果 (総括)	設備、教具等に関しては法令に適合しているが、順じ新しい器材と入れ替えが望ましい。 R6/3月に移転した際に普通教室にZoom用カメラを設置し通信制高校からの入学生つまり登校に難がある学生に対しての環境が良くなった。。
取組状況と その分析	歯科用CAD/CAMを2機種設置し、最先端の授業を行っている インターンシップでは、専攻科学生が現場で臨床体験実習を行っている。 年に1回消防訓練を行い、避難通路確認、消火器の使用法確認等を行っている。
今後の 改善方策等	校舎移転を行って施設は新しくなったので今後は教具器材等の教育環境等(老朽化器材の入れ替え)の改善を行いたい。

	教育環境	4.3
1	施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合し、かつ、教育上十分に設置・配置されていますか	5
2	校内外の実習、インターンシップ等について、十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災・安全管理に関する体制は整備されているか	4
実施状況等	1.施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合しており、教育上十分に設置・配置されているが、器材によっては買い替えが必要と思われる。 2.校内の実習は十分な教育体制をとっているが校外に関しての企業見学は大手の和田精密歯研1社のみ行った。 3.令和6年度は看護師科と共に消防訓練を行い避難通路確認、消火器の使用法確認を行った。学校全体で災害情報アプリを取り入れ災害時マニュアルも製作し学生に渡している。	

学生募集と受入れ

評価

評価結果 (総括)	受動的な活動に関しては、今までの経験等を踏まえてブラッシュアップ出来ているように思う。 専攻科進学者の企業奨学金を多くの学生が利用している。 今後は、こちらから高校生や社会人に対してのアプローチを強化する必要がある。
取組状況と その分析	オープンキャンパスの参加者が少ない。高校生への周知活動を強化する必要がある。 奨学金を受け取る学生の増加が増えているので、入学時の器材・材料購入が負担となっている。
今後の 改善方策等	積極的に職員が高校へ訪問し、職業・学科の説明と出張授業の提案を行っていきオープンキャンパスへの参加を促していく。 学生の購入品目を減らすために学校備品を増やすことなど検討する必要がある。

	学生の受け入れと募集	4.1
1	高等学校等直結する教育機関に対し、教育活動等の情報提供を行っているか	4
2	体験入学・オープンキャンパス等を実施し、多くの人に教育内容・施設設備等の紹介をしているか	5
3	入学に対する問い合わせ等に適切に対応できる体制を取っていますか、または人員を配置しているか	5
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	社会人の「学び直し」に対応し、社会人を積極的に受入れているか	4
6	教育訓練給付制度（一般教育訓練給付・専門実践教育訓練給付）を利用できるよう取り組んでいるか	3
7	給付型奨学金や授業料等減免など、学校独自に学生への経済的支援を行っているか	4
実施状況等	1.会場ガイダンス、高校訪問も担当者が随時行って情報提供している。 2.複数の高校から体験入学の要請を受けて実施している。オープンキャンパスも10回以上行って、教育内容・施設設備等を紹介している。 3.インターネット、電話等での問い合わせは事務局が受け、該当する各科の事務職員あるいは学科長等が対応している。 4.近隣の専門学校と比べて同等の学納金である。 5.シニア優遇制度、シングルマザー・シングルファザー優遇制度、有資格者制度などを設けている。 6.技工士科は専攻科進学率が高いためこの制度が使用できないのが問題である。 7.KACサポート制度、KAC奨学金、技工士科企業奨学金など学校独自の経済的支援を行っている。	

社会貢献・地域貢献

評価

評価結果 (総括)	献血に学科としては協力したいが、希望者が少なく令和4年度から行っていない。 佐賀2024全障スポにボランティアとして学生、教職員が参加をした。
取組状況と その分析	歯科関係企業と協力し福祉施設の利用者さんの義歯の抗菌作業に取り組んでいたが、コロナ感染防止の為に数年前から行っていない。(専攻科) 献血に取り組むよう奨励している。地域との交流情報が無いので地域貢献は厳しい。
今後の 改善方策等	ボランティアの要請があれば活動に協力するよに奨励を行う。

	社会貢献・地域貢献	3.0
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4
3	地域の企業、業界団体、自治体等と連携した事業等を行っているか	3
実施状況等	学生の殆どが土日はアルバイトを行っておりボランティアへの協力はなかなか厳しい状況であるが、今年度は佐賀2024全障害スポが開催されたおかげで自治体にボランティア活動として協力できたと思う。	

令和6年度の目標と計画

目標	(重点目標) 人に寄り添い心身の健康を維持・増進させることができる知識・スキルを修得させ、即戦力となる鍼灸師のスペシャリストを育成する。
計画	(目標達成のための具体的事業計画、行動計画) 学生の基礎学力の確認を行い、個人に適した授業方針を教員間で協議し、修学に遅れの出ない授業を行う。必要に応じて補習を行い知識や技術を確実なものにする。また、より深い知識・技術を求めるものには臨床研修科と協力し、研究会・セミナー等を行う。

教育活動

評価

評価結果 (総括)	修業年限に対応した教育レベル到達は個人差が大きく達成に困難を生じた。 教育課程（カリキュラム）は、体系的に編成され入学前に学生に周知されるようになり、自ら内容を把握する学生が増え教育効果が高まっている。 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムやその教育方法の工夫・開発などが行われ、卒業生は即戦力として現場で活躍している。 客観的な授業評価の実施に取り組んだ。
取組状況と その分析	教育レベル達成に関しては授業のみでは困難な場合が多く時間外の指導を行っている。 時間外の指導を行うなかで、通常の授業形式での指導ではあまり効果がみられなかった。 個別指導を増やすことにより不足を補うことができた。
今後の 改善方策等	教育到達レベル・教育課程を明確にし、事前に個々の学生に伝え確実に把握させる。 客観的で正確な授業評価の実施・評価体制の確立を目指す。 課外の実践活動は継続して行うが、個人指導の場を増やし、全員の目標達成を目指す。

	教育活動	3.5
1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限を設定し、その修業年限に対応した教育到達レベルを明確にしているか	4
2	教育課程（カリキュラム）は、体系的に編成され事前に学生に開示されているか	4
3	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	1
5	資格・免許取得のためのカリキュラムを組んでいるか	5
6	資格・免許取得のための指導体制がとられているか	5
7	教員数は関係法令等を満たしているか	3
8	教員研修会等への参加を奨励・支援しているか	4
9	校内研修（OJT）を行っていますか	3
10	企業、業界団体、自治体等と連携した授業等を行っていますか	4
11	企業、医療機関等において、校外実習・インターンシップ等を実施していますか	2
実施状況等	1.学生便覧、シラバスに明記している。 2.教務会議でカリキュラムは十分検討しており、内容はシラバスに明記している。 3.国家資格取得が目標である学科なので、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが設定されており、実践的な実習を工夫して教育している。 4.実施していない。 5.国家試験を意識したカリキュラムになっている。 6.進度が遅れた学生に対し、放課後に少人数補習を行って教育レベル到達の達成を図っている。 7.専任教員全員を鍼灸師で固めたい。 8.日本鍼灸師会への参加を毎年行っている。 9.新任教員を対象に行っている。 10.小郡市、東京理科大学と共同研究契約を結び、連携教育を行っている。 11.附属鍼灸治療院に多くの外来患者が来られるので、校外実習はあまり行っていない。	

学修成果

評価

評価結果 (総括)	100%対面授業ができるようになり国家資格取得対策や実技実習を十分に行えるようになった。 国家試験全員合格と即戦力の養成に繋がった。 就職率の向上については学園と協力し目標を達成している。
取組状況と その分析	国家試験対策は成績基準を設け、成績不十分な者に対しては強制的な補習を行った。 年度途中、病気で退職した職員がおり、十分な指導を行えない部分があった。 求人票はすべて学内に掲示し情報提供を行った。 個々への対応を増やすことにより、退学率の低減につながった
今後の 改善方策等	国家試験対策は現在の内容を継続することにより効果が期待できる。 就職率の向上を目指すため、教員の指示により定期的に求人情報を確認させ、職場見学を促す。 学生との距離を更に縮め面談等を行い、学習面、生活面での問題点を拾い上げて、退学率の低減に努める。

	学修成果	4.0
1	国家資格取得率向上のための対策等を講じているか	4
2	就職率の向上が図られているか	4
3	学生の就職活動状況を把握し、指導・助言する体制があるか	4
4	退学率の低減が図られているか	4
実施状況等	1. 模擬試験等に成績基準を設け、成績不十分な者に対しては強制的な補習を行った。 2. 求人票はすべて学内に掲示し情報提供を行い、事業所とも連絡を取り合っている。 3. 就職担当の教員が活動状況等を把握し、他の教員も個人的な指導・助言を行っている。 4. 常に教員からの声かけを行っており、担任、学科長、校長による個人面談も行った。	

学生支援

評価

評価結果 (総括)	学生支援に関してはほぼ適正に行われている。
取組状況と その分析	求人票を学内に掲示し、個別の質問等に対応できる体制を整え、企業主催の就職説明会への積極的参加を促している。 専門家による校内カウンセリングは需要がない期間が長かったため休止状態となっている。 何らかの問題を抱えている学生は、その都度面談を行い、保護者とも十分に連携を取っている。
今後の 改善方策等	公的支援制度や本校独自のサポート制度、分割納入、奨学金については事務局に委ねているが教員も関りを強めて情報発信を行う。 問題のある学生だけでなく全学生と面談を行い、保護者との連携を強める。

	学生支援	3.9
1	就職・進路等に関する支援体制は整備されているか	4
2	就職説明会等を開催しているか、または人材関連企業等が主催する説明会等への参加を奨励しているか	4
3	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4	公的支援制度の利用について、学生・保護者に案内、情報提供しているか	4
5	学費の減免、特待生制度、学校独自の奨学金制度等はあるか	4
6	学生に対し、定期健康診断を実施しているか	5
7	遠隔地からの学生のための寮を整備したり、またはアパート・マンションの紹介等をしているか	3
8	保護者・保証人との連携は図られているか	4
9	卒業生への支援体制はあるか	3
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
実施状況等	1.求人票を常時学内に掲示し、個別質問は教員全体で対応している。 2.校内での就職説明会は中止したが、できるだけ多くの企業説明会へ参加するように指導している。 3.学生の相談は担任、学科長、科内の職員、校長で行っている。 4.オリエンテーション時に説明している。 5.KACサポート制度として各種の学費減免制度がある。また、その他の奨学制度についても紹介している。 6.胸部レントゲン、内科検診を実施している。 7.アパートの紹介等は随時行っているが、寮の整備はできていない。 8.問題があると認められた学生の保護者とは随時連絡を取り合っている。 9.求人情報は常に提供している。 10.多くの高校からのキャンパス見学を受け入れ、出張授業も行いキャリア教育・職業教育に資している。	

教育環境

評価

評価結果 (総括)	教育環境に関しては関係法令に適合し問題はないと思われる。 防災・安全管理に関する体制は整備されている。 実習に関しては十分に行っている。 感染対策は継続して行っている。
取組状況と その分析	校内の附属治療院で外来患者に対する臨床実習を十分に行っている。 海外研修に関しては安全、経済面の点から休止しているが、国内の研修は参加させている。 消防・避難訓練は年1回必ず実施しており、防災に対する意識づけはできていると思われる。
今後の 改善方策等	校内の臨床実習で十分であるが、校外のインターンシップも経験させたい。 消防・避難訓練は自然災害も想定し、防災訓練とし実践的なものにしたい。 感染症対策を継続して行っていく。

	教育環境	4.0
1	施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合し、かつ、教育上十分に設置・配置されていますか	4
2	校内外の実習、インターンシップ等について、十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災・安全管理に関する体制は整備されているか	4
実施状況等	1.施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合しており、教育上十分に設置・配置されている。 2.校内の実習は臨床実習も含め十分な教育体制をとっている。国内の研修は 継続して行っている。 3.毎年1回消防訓練を行い、避難通路確認、消火器の使用法確認等行っている。	

学生募集と受入れ

評価

評価結果 (総括)	学生募集に関してはオープンキャンパス、高校・会場ガイダンス、出張講座などに取り組んではいるが入学生の確保には至っていない。教務による鍼灸院・鍼灸整骨院などへの訪問も開始した。社会人の入学生は現役生よりも多かったが、仕事の性質上、更なる募集に力を入れたい。
取組状況と その分析	体験入学・オープンキャンパスだけでなく、常に校内見学・相談等は受けつけている。 問い合わせに関しては事務局と教務で協力して十分に対応している。 教育訓練給付制度（一般教育訓練給付・専門実践教育訓練給付）を利用できるよう目指しているが今年度は要件を満たしていない。
今後の 改善方策等	高等学校等直結する教育機関に対し、教育活動等の情報提供や模擬授業等を継続して行い、鍼灸の魅力を直接伝えていく。 成績優良者への授業料減免も加え学生への経済的支援を考える。

	学生の受け入れと募集	3.9
1	高等学校等直結する教育機関に対し、教育活動等の情報提供を行っているか	4
2	体験入学・オープンキャンパス等を実施し、多くの人に教育内容・施設設備等の紹介をしているか	4
3	入学に対する問い合わせ等に適切に対応できる体制を取っていますか、または人員を配置しているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	社会人の「学び直し」に対応し、社会人を積極的に受入れているか	5
6	教育訓練給付制度（一般教育訓練給付・専門実践教育訓練給付）を利用できるよう取組んでいるか	3
7	給付型奨学金や授業料等減免など、学校独自に学生への経済的支援を行っているか	3
実施状況等	1.高校訪問担当者が常に高校訪問や会場ガイダンスへの参加を行っており、各科の紹介、入試情報の説明を行っている。高校からの訪問も随時受け入れ情報提供を行っている。 2.複数の高校から体験授業の要請を受けて実施している。オープンキャンパスも17回行い、教育内容・施設設備等を紹介している。また、鍼灸スペシャルDAYを設け美容とスポーツに特化したオープンキャンパスも実施した。 3.インターネット、電話等での問い合わせは事務局が受け、該当する各科の事務職員あるいは学科長等が対応している。 4.近隣の専門学校と比べて同等の学納金である。 5.鍼灸師科は社会人入学者が約半数を占めている。 6.「高等教育の修学支援新制度」の対象校である。 7.KACサポート制度など、学校独自の経済的支援を行っている。	

社会貢献・地域貢献

評価

評価結果 (総括)	臨床実習や附属治療院での治療を通して地域の方々の健康維持・増進に貢献している。 多くの人が医療の国家資格を取得できるよう年齢・性別を問わず最大限受け入れ、多くの治療家を輩出している。 地域住民に向け、お灸教室を開催している
取組状況と その分析	附属治療院では病気の種類を問わず（WHOで禁忌となる疾患は除く）多くの患者様を受け入れて治療を行っている。 臨床実習では現役3年生にも治療を担当させ、患者様にも喜んでいただき、自立して社会貢献のできる鍼灸師を養成している。
今後の 改善方策等	地域へのボランティア活動が少なくなってきたので、活動数を復活させる。 地方自治体の主催する健康増進事業には現在も参加しているが、より積極的に参加するようにする。

	社会貢献・地域貢献	4.0
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4
3	地域の企業、業界団体、自治体等と連携した事業等を行っているか	4
実施状況等	1.附属鍼灸治療院での治療を通して社会貢献・地域貢献活動を行っている。また、お灸教室や健康美容セミナーを開催し、セルフケアの啓蒙を行っている。子育て支援施設でのスキンタッチ教室を実施した。 2.佐賀2024全障スポーツ大会にボランティアとして参加した。 3.小郡市、東京理科大学と協定を結び、小郡市でのイベント等に参加している。	

令和6年度の目標と計画

目標	(重点目標) 現在の柔道整復師業界の風潮に流されない、柔道整復師本来の業務を全うできる人材育成を目指し、ひいては地域医療に貢献できる柔道整復師を育成する。
計画	(目標達成のための具体的事業計画、行動計画) 国家資格取得を大前提とし、そのための補習を2・3年生は前期より実施し、1年生も後期より実施する。 また、ほぼ毎週実施している近隣高等学校でのトレーナー活動に在学学生も帯同できる環境をつくり、教科書だけでは学べない、より実践的な学びを得られる体制づくりを行っていく。

教育活動

評価

評価結果 (総括)	旧カリキュラムはシラバスどおりに実施できたが、カリキュラムの内容や受講時期などが効率的ではない部分があったため、新カリキュラムへの変更を行った。 学習進度が遅れがちな学生へも、3年生のみとなったが補習を実施することができた。 また、より深い学習の習得を目的として、非常勤講師のご理解・ご協力のもと、今まで行っていなかった定期試験や卒業試験問題の一時的返却を行い、最終的に1・2年生は減給留め置きとなる事が無く、全員進級することができた。
取組状況と その分析	本学科自体の体制が不安定な状況でのスタートとなり、余力もなかったため、まずは3年生の卒業試験合格と国家試験合格にポイントを絞り、補習などを前期より行った。
今後の 改善方策等	次年度は、本学科の体制も整うため、各学年ごとに適時補習など必要な対応を始めたい。

	教育活動	3.3
1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限を設定し、その修業年限に対応した教育到達レベルを明確にしているか	4
2	教育課程（カリキュラム）は、体系的に編成され事前に学生に開示されているか	4
3	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
5	資格・免許取得のためのカリキュラムを組んでいるか	4
6	資格・免許取得のための指導体制がとられているか	2
7	教員数は関係法令等を満たしているか	2
8	教員研修会等への参加を奨励・支援しているか	4
9	校内研修（OJT）を行っていますか	3
10	企業、業界団体、自治体等と連携した授業等を行っていますか	1
11	企業、医療機関等において、校外実習・インターンシップ等を実施していますか	5
実施状況等	1.学生便覧、シラバスに明記している。 2.教務会議でカリキュラムは十分検討しており、内容はシラバスに明記している。 3.国家資格取得が目標である学科なので、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムが設定されており、実践的な実習を工夫して教育している。 4.学生アンケートを実施している。 5.国家試験を意識したカリキュラムになっている。 6.進度が遅れた学生に対し、放課後を利用した補習をおこなって教育レベル到達の達成を図っている。 7.専任教員4人だが、常勤職員を2人雇用する予定があり、来年度中に教員講習を受講させる予定である。 8.日本柔道整復師会学術大会への参加を毎年おこなっている。 9.職員間での意見交換や研修会の情報共有などを行っている。 10.今年度は行っていない。 11.老健施設、接骨院等への臨床実習によりインターンシップをおこなっている。	

学修成果

評価

評価結果 (総括)	国家試験の結果は、15名が受験し4名の不合格者を出した。 合格したうち9名は本学科規定の卒業要件をクリアしていたが、残り6名は最終的に校長判断での卒業見込み・国家試験受験となり、その内4名が不合格となった。 学科としての合格基準はおおむね正しいと考えられるので、来年度に向けて改善できるところは改善していきたい。
取組状況と その分析	補習は行っていたが、あくまで強制ではなく希望者を対象に行った。 より深い学習の習得を目的として、非常勤講師のご理解・ご協力のもと、今まで行っていなかった定期試験や卒業試験問題の一時的返却を行い、最終的に1・2年生は減給留め置きとなる事が無く、全員進級することができたため、今後も継続して行っていきたい。
今後の 改善方策等	問題の一時的返却を実施するにあたり、非常勤講師の先生方からの採点結果や試験問題の返送などに時間がかかり、一時的返却の期間が限られる問題があったため、来年度はその点を改善できるような取り組みを行っていきたい。

	学修成果	4.0
1	国家資格取得率向上のための対策等を講じているか	4
2	就職率の向上が図られているか	4
3	学生の就職活動状況を把握し、指導・助言する体制があるか	4
4	退学率の低減が図られているか	4
実施状況等	1. 前期より、国家試験でも問題数の多い解剖学、生理学の補習を行った。また、最も配点の多い柔道整復理論と、必修問題の補習も後期より実施した。 2. 学生が閲覧しやすいように求人票をファイリングし、必要に応じてアドバイスしている。 3. 担任が就職相談に応じており、他の教員も相談に応じている。 4. 担任教員と教職員合わせて2名で個人面談や、保護者を含めた四者面談をおこない対応している。	

学生支援

評価

評価結果 (総括)	在校生への就職支援は現行で十分だと思えるが、卒業生からの就職相談や求人などの連絡もあったため、卒業生へのサポート体制も構築していきたいと考えている。 公的支援制度に関しては、事務局側より案内のあったものは行っているが、それだけで十分かどうかの検討は必要かもしれない。
取組状況と その分析	いま現在、本学科同窓会組織は機能していない状況であることを把握できたため、再度活発な活動ができるように本学科も支援を行っていききたい。 まずは、各卒業クラスの代表者とのコンタクトを取りことから始めていきたい。
今後の 改善方策等	本学科の担当者より、同窓会組織の活動に関し連絡を取り、いま現在同窓会組織に入っていない卒業クラスの代表者を招集することから始めたい。 同窓会組織の体制が整った後は、研修会の実施や、同窓会組織内での求人が活発に行っていけるようにしていきたい。

	学生支援	3.5
1	就職・進路等に関する支援体制は整備されているか	3
2	就職説明会等を開催しているか、または人材関連企業等が主催する説明会等への参加を奨励しているか	2
3	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4	公的支援制度の利用について、学生・保護者に案内、情報提供しているか	3
5	学費の減免、特待生制度、学校独自の奨学金制度等はあるか	4
6	学生に対し、定期健康診断を実施しているか	5
7	遠隔地からの学生のための寮を整備したり、またはアパート・マンションの紹介等をしているか	3
8	保護者・保証人との連携は図られているか	4
9	卒業生への支援体制はあるか	3
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
実施状況等	1.個別質問は教員全体でおこなっている。 2.人材関連企業によってはトラブルとなっている業者もあるため、慎重に見極めたい。 3.学生とは教職員2名体制での個人面談をおこなっている。 4.オリエンテーション時に説明している。 5.KACサポート制度として各種の学費減免制度がある。また、その他の奨学制度についても紹介している。 6.胸部レントゲン、内科検診を実施している。 7.アパートの紹介等は随時おこなっているが、寮の整備はない。 8.問題があると認められた学生の保護者とは随時連絡は取っている。 9.同窓会組織の現状の把握を行った 10.複数の高校からキャンパス見学を受け入れ、キャリア教育・職業教育に資している。	

教育環境

評価

評価結果 (総括)	施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合しており、備品等の増加も順次おこなっており、教員の増員も計画的に行っている。 校外での臨床実習は信頼できる委託先をお願いしている。また、カリキュラム外ではあるが、近隣高校へのトレーナー活動に学生も帯同できるようにしている。 防災・安全管理は、適切におこなわれている。
取組状況と その分析	実習に関して、附属関連施設や外部実習先と連携を取りながら進めているが、立ちっぱなしの見学や掃除で終わる施設が多いようなので、より臨床実習が充実したものとなるように、本学科としても取り組みが必要かもしれない。 また、年に1度消防避難訓練をおこない、学生全員に対し防災意識を高めさせている。
今後の 改善方策等	校外の接骨院での臨床実習の体制を充実させる。また、近隣高校でのトレーナー活動への帯同も、主に陸上部、サッカー部に対する活動が多いため、症例が腰部から下に集中しているので、上肢を使うスポーツも診れるような体制づくりに取り組みたい。

	教育環境	4.3
1	施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合し、かつ、教育上十分に設置・配置されていますか	4
2	校内外の実習、インターンシップ等について、十分な教育体制を整備しているか	5
3	防災・安全管理に関する体制は整備されているか	4
実施状況等	1.施設・設備、教具等の種類・数量は関係法令に適合しており、教育上十分に設置・配置されている。教員の数も次年度には達成できる計画となっている。 2.校内の実習は臨床実習も含め十分な教育体制をとっている。カリキュラム外でも、学生からの希望の多いトレーナー活動への帯同も積極的に進めている。 3.毎年1回消防訓練を行い、避難通路確認、消火器の使用方法的確認等行っている。	

学生募集と受入れ

評価	
評価結果 (総括)	学生募集に対して積極的に高校への情報提供、相談受け入れ等をおこなっているが、定員を満たしていないため、その方法などの検討の必要がある。 社会人への対応は、社会人が柔道整復師の資格を取得しようとするきっかけや理由について把握する必要があると考える。 スポーツ分野でのガイダンスの数が増えているので、その需要に応じた体制づくりをすることで、入学者の増加につなげていきたい。
取組状況と その分析	学科としてもガイダンスへ積極的に参加しており、職業理解も含めて、資格の魅力をアピールしている、また、オープンキャンパスを開催し学校見学や相談といった対応もしている。 今年度の入学生のうち3名は整骨院グループからの紹介であったため、今後も様々な整骨院から紹介していただけるような、整骨院向けの取り組みを検討したい。
今後の 改善方策等	柔道整復師という職業認知を高める必要があるため、近隣高校へのトレーナー活動を通じてアピールしていきたい。また、トレーナー活動に在校生を同行させることで、他の専門学校には無い、より実践的な教育を行っていることをアピールしたい。

	学生の受け入れと募集	4.0
1	高等学校等直結する教育機関に対し、教育活動等の情報提供を行っているか	5
2	体験入学・オープンキャンパス等を実施し、多くの人に教育内容・施設設備等の紹介をしているか	4
3	入学に対する問い合わせ等に適切に対応できる体制を取っていますか、または人員を配置しているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	社会人の「学び直し」に対応し、社会人を積極的に受入れているか	4
6	教育訓練給付制度（一般教育訓練給付・専門実践教育訓練給付）を利用できるよう取組んでいるか	3
7	給付型奨学金や授業料等減免など、学校独自に学生への経済的支援を行っているか	4
実施状況等	1.会場ガイダンス、高校訪問に担当者が随時行って情報提供している。 2.複数の高校から体験入学の要請を受けて実施している。オープンキャンパスでは、教育内容・施設設備等を紹介している。 3.インターネット、電話等での問い合わせは事務局が受け、該当する各科の事務職員あるいは学科長等が対応している。 4.近隣の専門学校と比べて学納金が低価格である。 5.柔道整復師科は社会人入学者は全体の約20%を占めている。また、シニア優遇制度、シングルマザー・シングルファザー優遇制度、トリプルライセンス制度、有資格者制度がある。 6.入学生の確保がまだ十分ではないので、まずはその取り組みを行っている。 7.KACサポート制度、KAC奨学金など学校独自の経済的支援をおこなっている。	

社会貢献・地域貢献

評価

評価結果 (総括)	近隣高校でのトレーナー活動を通じ、部活動生の健康管理やトレーニング、セルフケアの指導などを行っている。 昨年度実施のSAGA2024国スポにおいては、公益社団法人佐賀県柔道整復師会からの依頼により、本校教員がレスリング競技や、身体障害者バレーボールの救護やコンディショニングを担当するなど、全国大会レベルのイベントでも活躍した。
取組状況と その分析	今後も継続してトレーナー活動を実施していきたい。いま現在は、陸上部、サッカー部など、限られた部活動に対する活動であるため、スポーツの種目を問わず様々な部活動がみれるような体制づくりを行ってきたい。
今後の 改善方策等	来年度ポータブルエコーの導入を検討しており、将来的にエコーを用いたスポーツ障害の早期発見などの取り組んでいけるような環境を創っていきたい。

	社会貢献・地域貢献	4.7
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	5
3	地域の企業、業界団体、自治体等と連携した事業等を行っているか	5
実施状況等	1.近隣高校でのトレーナー活動を行っている。 2.トレーナー活動に学生が帯同できるような体制を創っている 3.業界団体の依頼により、全国レベルの大会で救護ボランティア、コンディショニングを行った。	

法令等の遵守

評価

評価結果 (総括)	専修学校設置基準及び関係法令は遵守している。また、就業規則にハラスメント防止規定、個人情報保護を含む必要な諸規定を整備し運用している。 自己点検評価は、現在は学科長が点検評価したものを校長が取りまとめており、継続的な自己点検評価システムの構築が必要と考えている。
取組状況と その分析	就業規則等の見直しは法律の改正に従い行っており、令和7年4月1日から改正される育児・介護休業法についても変更を行う。 自己点検評価については、評価項目の整理及び評価組織の体系化に取り組んでいる。
今後の 改善方策等	今後の就業規則等の見直し等は、法令を遵守し社会保険労務士、弁護士と協議を行い見直しに取り組む。

	法令等の遵守	3.4
1	専修学校設置基準及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされているか	4
2	学校運営に必要な諸規程を整備し、それを適正に運用しているか	4
3	セクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメント等の防止について、規程を文書化し、対策を立て実行しているか	4
4	個人情報の取扱いについて、規程・方針を策定しているか	3
5	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し、意識づけができているか	3
6	自己評価を適正に実施・運用するためのルールが明文化されているか	3
7	実施のための組織体制を整備し、定期的に取組み問題点の改善を行っているか	2
8	自己評価結果をホームページに掲載するなど公表していますか	4
実施状況等	1. 本校は設置基準を満たしており、関係法令等を遵守し、適正に運営している。 2. 本校は就業規則を定めており、必要な諸規定を包含している。 3. 九州アカデミー学園ハラスメント防止規定を作成し、ハラスメント委員会がすべてのハラスメントに対応している。 4. 就業規則の禁止事項に記載し、学生便覧には「ソーシャルメディア利用のためのガイドライン」を学内諸規定の章に記載している。 5. 個人情報保護については、月に1回開催される学科等会議で折に触れて注意を喚起している。特に学生の個人情報には、注意を払うように意識づけを行っている。 6. 現在は、学科長が各科の自己点検評価を行い、校長が取りまとめるルールで行っているが、明文化はされていない。 7. 本校は自己点検評価を5. で示したルールで行っているが、アドホック的な取り組みであるため、継続的な取り組みはできていない。	

財務

評価

評価結果 (総括)	人件費・経費は予算と乖離なく適切に予算のコントロールが行われておりますが、学生数の減少による学納金等の収入の減少・歯科衛生科の桜町キャンパスのトイレの改修などにより収支は厳しい状況でございます。上記の設備投資などによる学生の募集の改善・キャンパスの集約による経費の削減などを見込んでおり、収支の改善に取り組んでおります。
取組状況と その分析	歯科技工科の移転による古野の土地・土井キャンパス及び土井の土地の資産売却により財務体質の強化に努めております。歯科技工科の田代キャンパスの引越し費用・古野キャンパスの廃棄物撤去費用などの経費が一時的に増加しておりますが、歯科技工科の田代キャンパスの集約により管理経費が効率化され経常的な経費の削減がされております。
今後の 改善方策等	予算・収支計画・設備投資が有効、かつ、妥当なものとなっているかを監事に指導を受け顧問税理士などに適切な会計処理がされているかのチェックを受けていきます。顧問税理士ともに収支計画などを策定し収支の改善に取り組んでおります。学生の応募などの動向を鑑み学校運営の効率化を図りながら募集・設備等の投資など計画的に行っていき、学校の経営状態の改善を進めております。

	財務	3.8
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
2	予算・収支計画は有効、かつ、妥当なものとなっているか	4
3	予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	4
4	会計監査体制のルールが明確化されているか	4
5	会計監査の結果報告が文書化されていますか	4
6	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど体制整備はできているか	4
実施状況等	1. 設備投資の計画及び予算・収支計画の執行状況を定期的に検証している。 2. 各科から予算要望を集めて適切な予算編成を行っている。 3. 税理士の指導を受けながら会計処理を行っている。 4. 経理から毎月、税理士に会計資料をチェックを受ける体制となっている。 5. 監事に適正に行われているかのチェックを受けている。 6. 財務情報は理事会・評議員会では資料を配布・公開しており、ホームページ公開も行っている。	

学校運営

評価

評価結果 (総括)	学校運営について必要な規程やシステムは整えているが、運用面での改善は必要と考えており、継続的に点検等を行い整備を行う必要がある。 教務システムは学生管理、また、学生募集情報の管理として運用しているが、今後もシステムの追加更新など検証を行う必要がある。
取組状況と その分析	学校運営について、運営規程等の各種規定は整備しているが、明文化できていないものもある。 教務システムの運営については、教職員から改善要求がでている。また、事務については学校運営に強い公認会計士と契約し、規定等の整備等を行っているところである。
今後の 改善方策等	各種規定の整備を一層進める必要がある。令和5年度に新規契約した弁護士、社会保険労務士と協議しつつ整備・改善を進めていく。 教務システムについては、機能を生かしきれてない部分があるので運用法の改善を検討する。また、運用で改善できない部分については、機能追加も検討する。

	学校運営	3.3
1	目的等に沿った運営方針は定められているか	3
2	事業計画を作成し、それに伴う予算が組まれているか	3
3	事業計画の執行状況を確認していますか、または確認する体制があるか	4
4	寄附行為、理事会会議規則等（法人）、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会（法人）、学校の運営会議等が有効に機能しているか	4
5	人事・給与規程等が整備され、運用されているか	4
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2
実施状況等	1. 運営方針と明記されたものはないが、月に1度開催される運営会議において目的に沿った運営方針を協議・確認している。 2. 運営会議において事業計画が策定され、事務局で予算を組んでいる。 3. 事業計画の執行状況は担当者が運営会議において報告し、方針等を協議確認している。 4. 寄付行為等の運営規定は整備され、規定に従って理事会・評議員会は開催されている。 5. 学園の就業規則に人事規定、給与規定が記載され、整備・運用されている。	

令和6年度 自己点検・自己評価【総括】

九州医療専門学校

	評価項目	自己評価点	自己点検・自己評価総括
1	教育理念・目的は、定められているか	3.8	本校は、校訓、教育理念、教育目的を定め、学生便覧にも記載しており、育成人材像も医療・福祉のスペシャリストと明確に示している。また、三つのポリシーは一貫性のあるものとして作成している。 内容については入学式、卒業式、オリエンテーション、保護者会などで本学の特色を周知はしている。
2	教育活動	3.4	カリキュラムポリシーに基づいて教育は行われており、国家試験に合格できる適切な構成になっている。 授業では、対面を基本とした講義を行い、実習では各臨床実習に反映する実習を行っている。 単位取得が困難な学生には面談を行い、卒業レベルに到達しない学生に対しては、放課後等の時間を使い補習に取り組み、学力の向上に努めている。
3	学修成果	4.1	学修成果として各学年時の単位取得のために個別に指導を行い、国家試験対策については、各科独自の対策を行っており、国家試験合格率がほぼ100%を達成しているため、一定の成果が出ていると考えている。近年の学生全般にみられる学力の低下、資格取得の意識の低下もあり、低学年からの基礎学力の向上、専門職の重要性を認識させるなど、必要な学生への対応などを行っている。
4	学生支援	3.8	各学科は担任制を敷いており、学生の就学状況等に関し、適宜個人面談、保護者面談を行い支援している。しかしながら、問題を抱える学生が増えることを想定し、現在行っている学生支援体制をさらに強化する必要がある。 就職については、求人情報は十分にあり、学生は希望する就職先へ就職できている。しかしながら就職説明会の開催を継続していき学生の満足度を向上させる必要がある。
5	教育環境	4.2	教育施設・設備、備品、器具等は関係法令に適合しており、順次新しい備品の購入・更新も行っている。 校内の実習においては、同様に十分な教育環境のもと適切に行われている。 また、臨床実習が必要な科では、校内付属治療院、校外の治療院、大学病院、高齢・障害者施設、歯科医院と豊富な実習先で適切な実習が行われている。
6	学生の受け入れと募集	4.0	本年度から広報課を新設し、高校訪問や進学ガイダンスなど、学生募集活動を強化している。学生の大多数が佐賀県および福岡県出身であることから、近隣の高校を中心に広報活動を展開している。 また、オープンキャンパスの開催回数も増やしており、参加者数の増加を図っている。さらに、募集活動の効率化を目的としてSNSの活用にも注力しており、特にInstagramについては運営会議を開催し、順次内容の更新を進めている。
7	社会貢献・地域貢献	3.7	ボランティア活動としてお灸教室、高校への救護ボランティアや運動クラブへの運動指導などを行ったが、要請があれば積極的にボランティア活動を行う方向である。献血等については例年通りに行った。
8	法令等の順守	3.4	専修学校設置基準及び関係法令は遵守している。また、就業規則にハラスメント防止規定、個人情報保護を含む必要な諸規定を整備し運用している。 就業規則等の見直しは、社会保険労務士、弁護士と協議を行い見直しに取り組んでいる。
9	財務	3.8	人件費・経費は予算と乖離なく適切に予算のコントロールが行われていますが、学生数の減少による学納金等の収入の減少、改修工事等により収支は厳しい状況である。設備投資などによる募集の改善、キャンパスの集約による経費の削減などを見込んでおり、収支の改善に取り組んでいく。
10	学校運営	3.3	学校運営について必要な規程やシステムは整えているが、運用面での改善は必要と考えており、継続的に点検等を行い整備を行う必要がある。教務システムは学生管理、また、学生募集情報の管理として運用しているが、今後もシステムの追加更新など検証を行う必要がある。